男の目移り, やや本気?

恋愛関係の維持のための目標保護と性別の関係

○服部 陽介

(京都先端科学大学)

キーワード: 目標保護, 恋愛関係

Gender differences in goal shielding for maintaining romantic relationships

Yosuke Hattori

(Kyoto University of Advanced Science)

Key Words: goal shielding, romantic relationship

目的

特定の目標を追求する際には, その目標と競合する他の目標が自動的に抑制されることで, 適切な目標追求が実現される。この現象を目標保護という (Shah, Friedman, & Kruglanski, 2002)。恋人との恋愛関係を維持するという目標を追求する文脈では, 目標保護によって, 競合する他の恋人候補へのアクセスが抑制されると考えられる。実際に, 既婚者あるいは恋人がいる個人は, その配偶関係を意識することで, 他の魅力的な異性に対する注意が抑制されることが示されている (Maner, Gailliot, & Miller, 2009)。この知見は, 恋人がいる個人では, 恋愛関係を維持するための目標保護が生じることを示唆している。

このような, 恋愛関係を維持するための目標保護は, 男性と女性で同様に生じるだろうか。男性は女性に比べ, コミットメントの低い短期的な性的関係を志向する傾向が強いなど (e.g., 新井田・堀毛, 2017), 男性と女性で配偶のための戦略に差異があることが指摘されている。このような差異が, 恋愛関係を維持するための目標保護に影響を与える可能性があるだろう。そこで, 本研究では, 恋愛関係を維持するための目標保護が生じる可能性について検討するとともに, その目標保護が男女間で異なる可能性についても検討を行う。

なお, 目標保護に関する研究文脈では, 目標に関連する刺激への反応速度や目標の想起のしやすさといった, 目標へのアクセスの程度を主たる指標としてきたが (e.g. Shah et al., 2002), 本研究では, 従来の指標に加え, 想起される恋人候補の特徴についての質問を行うことで, これまでほとんど検討がされてこなかった, 恋愛関係を維持するための目標保護について, より詳細に検討を行うこととする。

方法

実験参加者 結婚経験のない男女375名 (うち女性188名) が実験に参加した (平均年齢42.82歳, 標準偏差10.98)。手続き 実験はすべてインターネット上で行われた。まず, 参加者は, 性別, 年齢, 婚姻状況に関する質問に回答した。結婚経験がある (離婚・死別を含む) と回答した参加者への質問は, ここで打ち切られた。結婚経験がないと回答した参加者は, 現在, 恋人がいるか否かに関する質問に回答した。恋人がいると回答した参加者は, 現在の恋人を思い浮かべ, その人物のイニシャルを記述した。それに対し, 恋人がいないと回答した参加者は, 現在, 恋人にしたいと思っている人物を思い浮かべ, その人物のイニシャルを記述した。ここで恋人にしたいと思っている人物について, 「いない」と回答した17名は後の分析から除外された。その後, すべての参加者は, 直前の質問で思い浮かべた人物が, どの程度, 恋人として理想的かを10件法で評価した。

その後, 参加者は, 恋人あるいは恋人にしたいと思っている人物以外で, 恋人にしたいと思っている人物のイニシャルを列挙する課題に取り組んだ。課題の時間は3分間に設定され

た。課題後, 参加者は, 列挙した人物が, どの程度, 恋人として理想的か (理想度), どの程度, その人物を恋人にするための努力をしているか (獲得努力), その人物をどの程度, 恋人にできると思うか (獲得可能性), を10件法で評価した。

結果

恋人候補として挙げられた人物数を恋人候補数とした。また, すべての恋人候補に対する理想度, 獲得努力, 獲得可能性の得点を平均し, それぞれ理想度得点, 獲得努力得点, 獲得可能性得点とした。なお, 恋人候補を挙げなかった参加者の各得点は0点として処理した。

各変数について, 性別 (2: 男性・女性) × 恋人の有無 (2: 恋人あり・恋人なし) の分散分析を実施した。その結果, 恋人あり群の方が恋人候補数が少なく ($F(1, 371) = 5.49, p < .05$) (恋人あり: $M = 1.66, SE = 0.17$; 恋人なし: $M = 2.21, SE = 0.17$), 恋人候補の理想度得点が低いことが示された ($F(1, 371) = 7.17, p < .01$) (恋人あり: $M = 4.18, SE = 0.23$; 恋人なし: $M = 5.15, SE = 0.25$)。これらの変数に対する性別の影響はみられなかった。

一方, 獲得努力得点を従属変数とした場合には, 性別と恋人の有無の交互作用が確認され ($F(1, 371) = 11.20, p < .01$), 恋人あり群では男性の方が女性よりも獲得努力を高く評価していたのに対し ($F(1, 371) = 13.25, p < .01$) (男性: $M = 3.12, SE = 0.25$; 女性: $M = 1.81, SE = 0.25$), 恋人なし群では男女間で獲得努力得点に差がみられなかった ($F(1, 371) = 1.36, p = .25$) (男性: $M = 2.47, SE = 0.27$; 女性: $M = 2.91, SE = 0.27$)。獲得可能性得点を従属変数とした場合にも同様の交互作用がみられ ($F(1, 371) = 10.09, p < .01$), 恋人あり群では男性の方が女性よりも獲得可能性得点が高かったのに対し ($F(1, 371) = 17.42, p < .01$) (男性: $M = 3.14, SE = 0.25$; 女性: $M = 1.67, SE = 0.25$), 恋人なし群では男女間で獲得可能性得点に差がみられなかった ($F(1, 371) = 0.18, p = .67$) (男性: $M = 2.17, SE = 0.26$; 女性: $M = 2.33, SE = 0.26$)。

考察

恋人がいる場合の方が想起される恋人候補数が少ないという結果は, Maner et al. (2009) に沿うものであり, 他の恋人候補へのアクセスが抑制される形で恋愛関係を維持するための目標保護が生じることが示された。また, 恋人候補数に対する性別の影響は確認されなかったことから, 従来の目標保護の指標である代替的な目標へのアクセスの程度には, 男女間で明確な違いがみられなかったといえる。その一方で, 挙げられた恋人候補の特徴には, 男女間で差がみられた。すなわち, 男性は女性に比べ, 恋人候補を恋人にするためにより努力しており, また, その候補を恋人にできる可能性をより高く評価していた。この男女差は恋人がいる場合にのみ確認されたことから, 恋愛関係の維持に関する文脈で, 男女の配偶戦略における差異が顕著に表れることが示唆された。